



川東小だより

第8号

平成30年12月14日

新発田市立

川東小学校

☆☆合い言葉は、「夢や目標」に向かってチャンス・チャレンジ・チェンジ です。☆☆

創立5周年の実り多い2学期を糧に、夢ふくらむ平成最後の冬休みへと
－「夢や目標」に向かってチャンス・チャレンジ・チェンジ－

校長 田中 範克

「子どものうちではあまり体験できないような仕事がたくさんできて、とてもわくわくしました。」「いろいろな体験をして、なんでもチャレンジして、自分の仕事や職業を見付けるんだと学びました。」「今回の体験を機に、将来の仕事について考えてみたいと思います。」「将来のために必要なことを学びました。」

これは、10月20日(土)に開催しました、創立5周年記念文化祭イベントの子どもたちの感想の一部です。この記念イベントは、「ワークわくジョブチャレンジ(ワークわくJC)」。ふるさとの特色ある仕事や活動、伝統芸能等の様々なブースを設定し、キャリア教育の視点でふるさとのよさと仕事について体験的に学ぶイベントでした。

子どもたちは、様々な仕事を実際に体験するとともに、ふるさとの働く人々や誇りをもって活動する人々とふれあい、未来の自分について意識し、「夢や目標」をしっかりとつとめることの大切さに気付くことができました。いろいろな意味で、記憶に残る、価値ある、実り多い5周年記念の行事となりました。ご協力していただいたPTAの皆様や様々な関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。本当に、本当にありがとうございました。

キャリア教育の有名な理論で、アメリカのクランボルツ氏が考案した「計画された偶発性理論」というものがあります。人生は、まさに偶発的、偶然の出会いの連続であり、実は、個人のキャリアの8割は予想しない偶発的な事象によって決定されるといいます。その偶然を計画的につなげて自分のキャリアアップを図る、というポジティブな理論が、「計画された偶発性理論」です。

6年生は、総合的な学習の時間で、「未来の自分 これからの自分」というキャリア教育の学習に取り組んでいます。11月からは、ワークわくJCでの体験や経験を生かした、外部講師を招く「プロフェッショナルから学ぼう」の学習をスタートしました。卒業に向けて、今と未来を意識し、職業観・勤労観の基礎を育み、自分のこれからの生き方や「夢や目標」を計画的に考える学習です。まさに「計画された偶発性理論」に沿って、キャリアアップが図られることを期待しています。

いずれにしても、全校の子どもたち一人一人は、2学期間、様々な行事や教育活動を通して、数多くの偶発的な事象を経験してきました。この経験を、これからの学習や生活で、「夢や目標」に向けて計画的に、意図的に生かし、一人一人のキャリアアップにつながることを願っています。

いよいよ、平成最後の冬休みを迎えます。冬休みこそ、「夢や目標」に向かってチャンス・チャレンジ・チェンジ!クリスマスやお正月などがある年末・年始。様々な出会いと楽しい体験が数多くあると思います。子どもたち一人一人の「夢や目標」、そして「今と未来に」につながる、わくわくする素敵な偶発的な出来事が多くあるといいですね。

さて、2学期は、創立5周年記念の文化祭もあり、とても充実した実り多い様々な教育活動を行うことができました。いつもご支援をしてくださっている保護者の皆様や地域の皆様のおかげです。心より感謝申し上げますとともに、よい新年を迎えますようご祈念いたします。